

埼玉親善大使・フィンドレー大学奨学生レポート 2月 多様性の大切さ

2月末に春学期の中間試験も終わり、残りの留学生生活も2ヶ月を切りました。フィンドレーの天候も春らしくなり、過ごしやすい日々が続いております。さて、今月は、沢山の留學生が参加する2年に一度にしか開催されない国際ファッションショーがありました。また、11月から毎週行っている国際ディスカッションでは、留學生のみではなく、アメリカ人の学生も加わり、より規模の大きい活動になってきました。最後に、ニッシンブレイキオハイオ(NBO)でのインターンシップでは、新たなライン提案に用いられる三次元CAD(Computer Aided Design)を作成しました。

■国際ファッションショー

この国際ファッションショーは、2年に一度にしか開催されないビッグイベントです。今回は、アメリカ、日本、中国、ベトナム、サウジアラビア、南アフリカ、バングラディッシュ、ナイジェリアなどの留學生が参加し、自国のファッションを身に纏い、各国の文化を紹介していきました。

私たち日本チームは、浴衣、着物、現代ファッションを着こなし、ダンスや劇を披露しました。私が担当した部分は、浴衣を着たガラの悪い三人組が着物を着た女性達を襲う場面で、会場で一番の歓声を頂いたのではないかと思います。日本人学生とは言っても、皆それぞれ違うクラスを取っているため、中々顔を合わせることがなかったので、一つにまとまるのは大変だったと思います。しかし、海外にいるからこそ、日本人が一致団結して一つの出し物を出すことは大事であり、大変良い経験になりました。

今回、このファッションショーを通して、多様性の大事さを実感しました。日本には、こんな沢山の国々の文化を知り得るチャンスは中々無いと思います。実際に、留學生が自国の最も知ってほしい文化を発信し、それを全員で共有し、学び取ることは、沢山の国から学生が留学しに渡ってくるアメリカだからこそできることです。また、留學生にアウトプットの機会があるということは、改めて自国の文化を振り返る良い機会でもあります。今まで、当たり前だと思っていた文化の中で、果たして、他国と比較して何が特別で異常なのか、どの文化が一番その国らしいか、と考える機会があることは、やはり自国から一歩外に出なければ、考えもしないことであります。客観的に自分を、そして自国を見ることが出来るのは、留学の醍醐味ではないかと、このファッションショーを通じて、思いました。



私たちの寸劇での一枚

■国際的ディスカッション

11月のレポートにて、この活動を紹介しましたが、参加者も益々増え、毎週20人を超える学生が参加するようになりました。参加者からの反応も上々で、留学生からは英語を鍛えることもでき、他国の文化を知ることができる良い機会だとフィードバックを頂いています。特に、1月よりアメリカ人学生も招待し、毎週何名かのアメリカ人学生が参加しています。ネイティブスピーカーが加わることにより、より質の高いディスカッションが行われるようになりました。特に、留学生が使わないような語彙が飛び交うため、留学生にとっては、英語力の向上に一役買っています。また、アメリカ人学生にとっても、留学生との難しいトピックの話し合いをする機会はあまり無いため、自身の価値観を広げる良いチャンスであり、とても面白いとの反響を頂いています。

さて、今回私がお話したいことは、多様性の重要性についてです。何かを学ぶということは、今まで出会わなかったようなものに出会ったときです。アメリカに渡り、様々なことを学びましたが、一つ一つの学びには、小さなカルチャーショックから大きなカルチャーショックまで伴っていました。特に、このディスカッションイベントを通して、参加者と同様に私自身も沢山の知識やアイデアを得ました。また、今まで普通だと思っていたことが、他国から見たら異常だということに気づくことができたのは、この多様性があったからこそでしょう。

先日、ディスカッションを通して、驚いたことが一つあります。ディスカッショントピックは「死刑制度」であり、各国の法律について話し合っていました。そこで、他国の学生達が「絞首刑は残虐だ」と言いました。実際に、アメリカの主流の執行方法は、薬物注射であり、苦痛をできるだけ抑えることを目的としています。しかし、日本では、絞首刑のみであり、それに対して、なんの疑問も感じなかった私には、驚きでした。日本では、常識だと思っていたこ

とが、海外の価値観から見てみると実は変である、ということが知れるのは、多様性に囲まれた環境ならでのことではないでしょうか。ぜひ、せっかく沢山の国々から学生が留学しに来ているのであれば、このチャンスを大いに活用すべきだと思います。私も、残り 2 ヶ月となりますが、よりこのグローバル環境を利用していきたいです。



集合写真

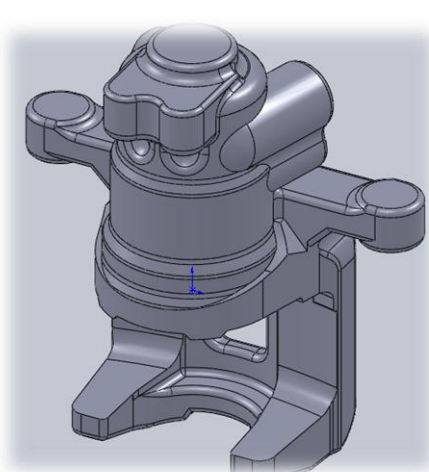


実際に議論を行っている様子

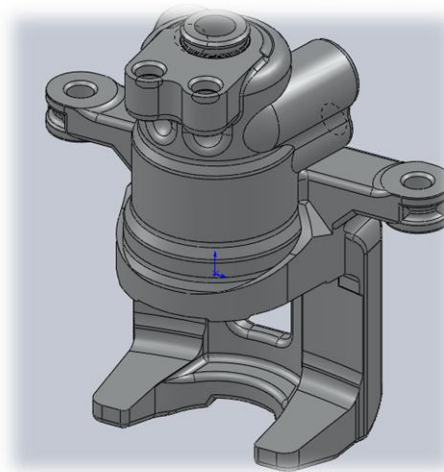
■インターンシップ

ここ 1 ヶ月以上は、三次元 CAD (Computer Aided Design) ソフトを用いたモデリングを任されています。NBO の加工部門では、以前まで二次元 CAD のみ使用していましたが、1 年前より、三次元 CAD も用いて製図を行っています。三次元

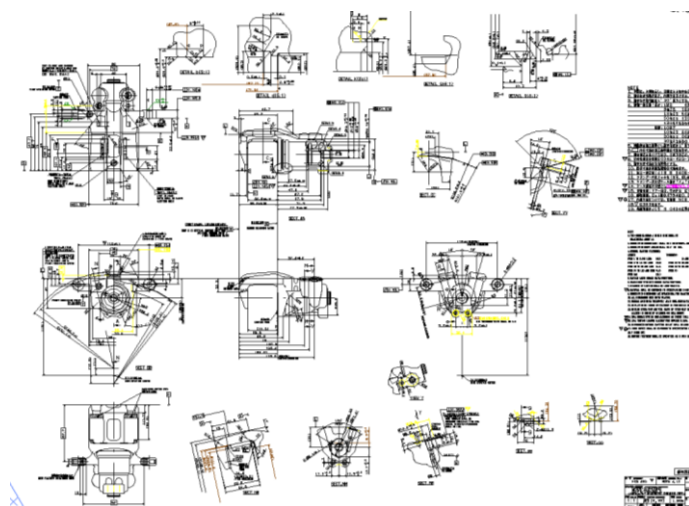
CAD を用いることによって、複雑な形状でも、わかりやすくなり、多少の寸法変更も容易に変えることができます。また、発注先にもデータを送ることで、ミスを軽減することができます。以下の画像は実際に、NB0 で生産されているディスクブレーキのボディーパーツです。左図は加工前の鋳物で、右図は加工後の製品です。実際に、二次元の図面から、このような三次元モデルを作成するには何時間もかかりますが、二次元のものよりも見やすく、後の仕事の効率が上昇します。



加工前のモデル



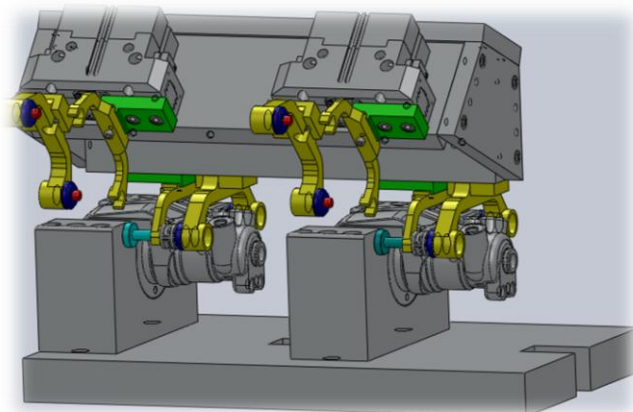
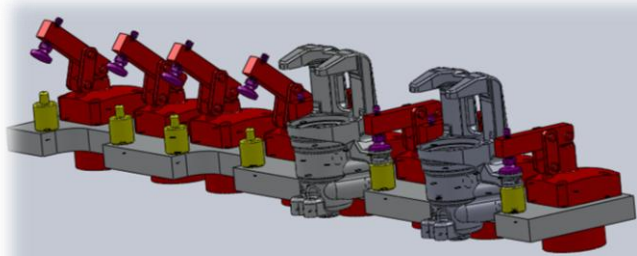
加工後のモデル



二次元の図面

さて、今回は、新しいロボットをラインに導入し、より効率をあげるための新しい提案に用いる三次元モデルの作成をエンジニアより任せられました。大まかなデザインはエンジニアから伺い、細かい寸法やデザインについては、現行のラインと比較しながら私が決定していきました。前回のレポートについても

述べた通り、加工のしやすさも考慮に入れながら、作業を進めました。このモデルは、新プランの提案として会議に用いられます。三次元 CAD の一番のメリットはパッと見てすぐわかるということであり、従来の口頭での説明や二次元図面による説明では、中々伝わり難い部分も、簡単に説明することができるようになります。



ロボット導入案の三次元モデル